

dLとLのかんけいをしらべよう

単 元	かさ	対象学年	2年
ね ら い	自分の計量カップを作ってdLとLの関係を知り, かさの量感を養うことができる。		

1 準備するもの

教師： 1 Lのカップ, 1 dLのカップ, プラスチックのカップ (児童の人数分)

目盛りの分からない容器

児童： ペン

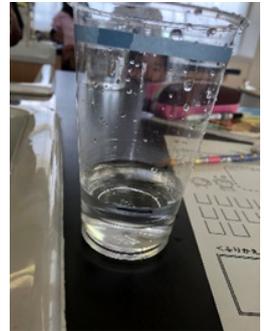
2 学習のしかた

(1) 前時の復習をする。

1 Lのカップを使って1 Lの量を確認する。いろいろな入れ物に入る水のかさの違いが1 Lのカップだけで比べられるかを問い掛けることで, Lより小さい量の単位が必要であることを気付くことができるようにする。

(2) 1 dLの自分の計量カップを作る。

- ① Lよりも小さい単位はdLであることを教え, 1 dLの水の量を提示する。
- ② 前時で学習した1 L にするためにはどうしたらよいか考える。
→「コップに印をつけたら1 dLの量が分かるよ。」
- ③ 透明のプラスチックのコップを一人一個配り, 1 dLの水を入れ, 液面に油性ペンで印を付ける。



(3) LとdLの関係を調べる。

1 Lのカップに1 dLが何杯入るか予想する。
1 dLの印を付けたプラスチックのコップを使って,
1 Lのカップに何杯入るか試してみる。



(4) 振り返りをする。

振り返りをワークシートに書き, 「1 dLは1 Lより小さい単位である」ことや, 「1 Lに1 dLが10杯入るから, 1 L=10 dLになる」ことを理解できたか確認する。

3 学習上の留意点

- ・水の量をどのように量ればよいのかを想起させるために、前時で1 Lのコップを使ってバケツ等の入れ物は何杯入るか試しておく。
- ・1 dLの水をコップに入れたら、平らな所に置き、水が動かなくなるまで待ってから印を付けるよう伝える。

4 学習の効果

- ・数学的活動として、1 dLの自分用の計量カップを使って1 Lを表すことによって、dLとLの関係を調べることで、より「1 L = 10dL」であること体感的な理解につなげることができた。

5 参考資料

※ワークシートの例

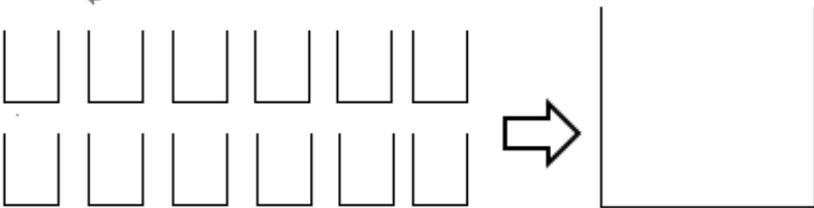
かさ

ほん 名前 (_____)

<めあて>

と L のかんけいをしらべよう。





 dL = 1L

<ふりかえり>

